

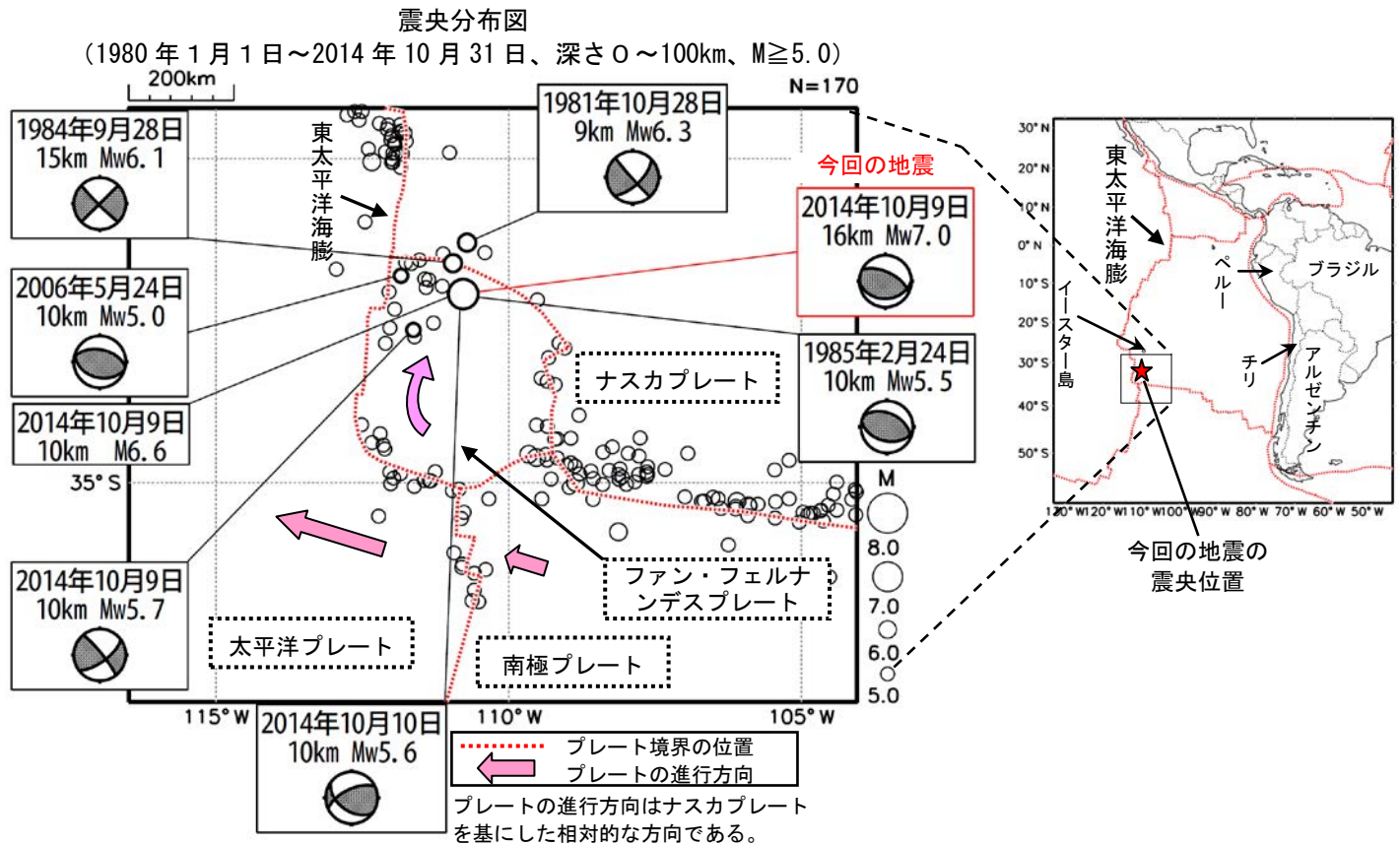
10 月 9 日 東太平洋海膨南部の地震

2014 年 10 月 9 日 11 時 14 分（日本時間）に、東太平洋海膨南部の深さ 16km で Mw7.0 の地震が発生した。この地震はファン・フェルナンデスプレート（マイクロプレート）内で発生した。発震機構（気象庁による CMT 解）は北北東－南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

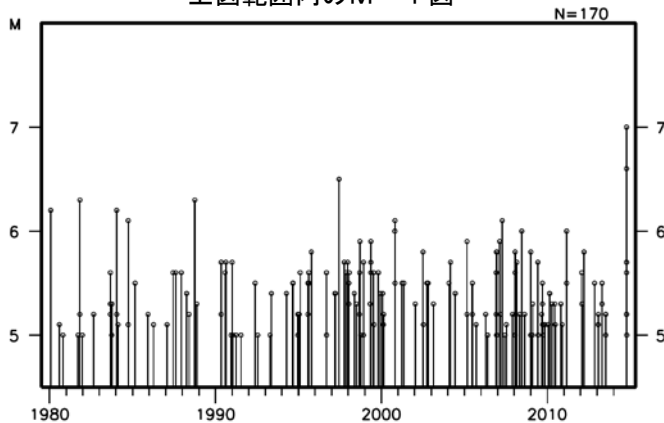
気象庁は、この地震について、同日 12 時 14 分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「震源の近傍で津波発生可能性があります。日本への津波の有無については現在調査中です。」）、同日 14 時 16 分に同情報（日本国内向け、「この地震による日本への津波の影響はありません。」）を発表した。

この地震により、津波が発生し、チリのイースター島で 47cm などの津波を観測した。

1980 年 1 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（下図範囲内）では M6.0 以上の地震がしばしば発生しているが、M7.0 以上の地震の発生は今回が初めてである。



上図範囲内のM-T図



※本資料中、今回の地震の発震機構（CMT 解）と Mw は気象庁による。その他の地震の発震機構（CMT 解）と Mw は GlobalCMT による。その他の震源要素及び被害は米国地質調査所（USGS）による。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（10 月 31 日現在）。プレート境界の位置と進行方向は Bird (2003) *より引用。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.